

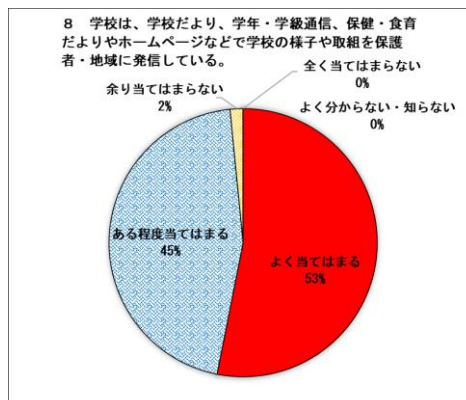
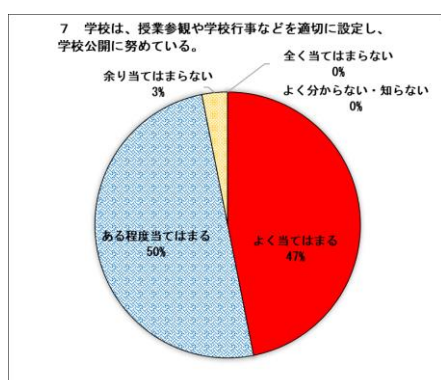
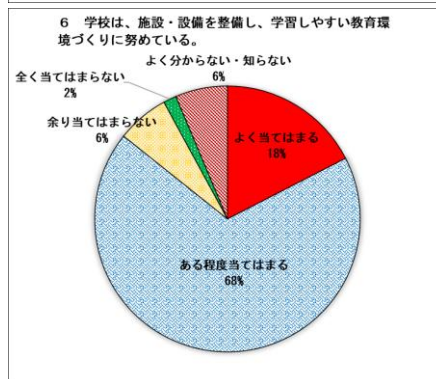
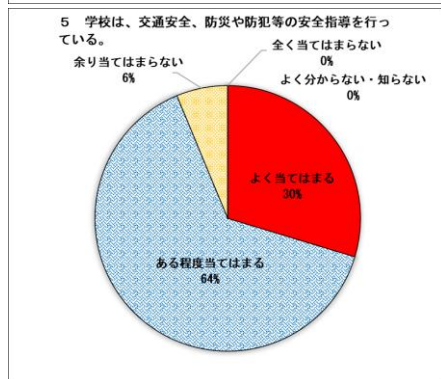
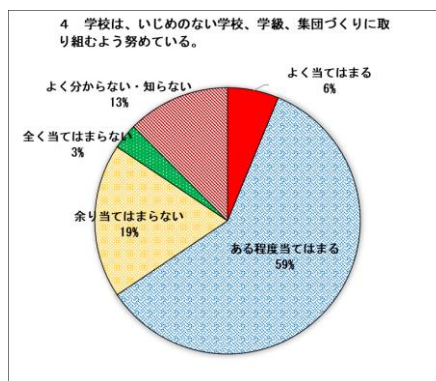
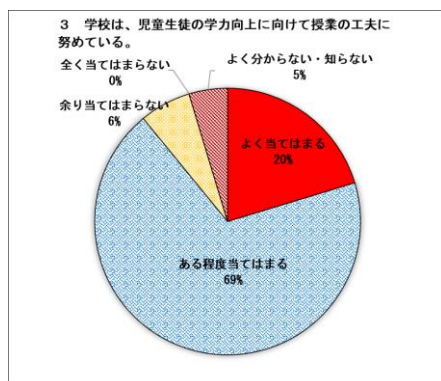
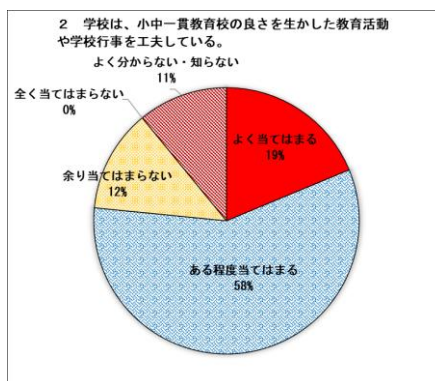
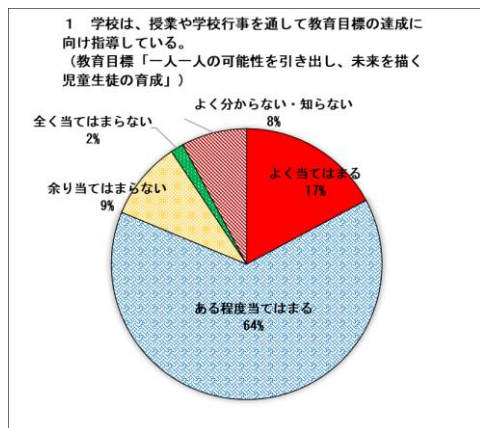
令和7年度第1学期 三和学園の教育活動についてのアンケート 結果と考察

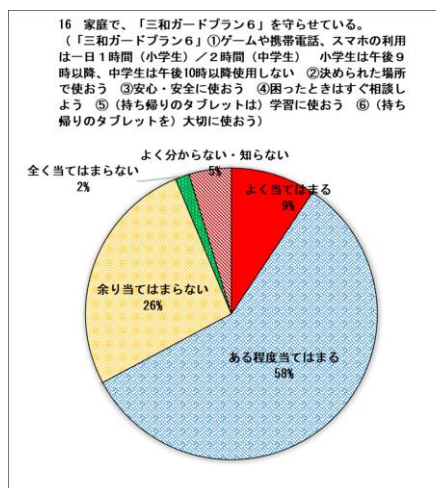
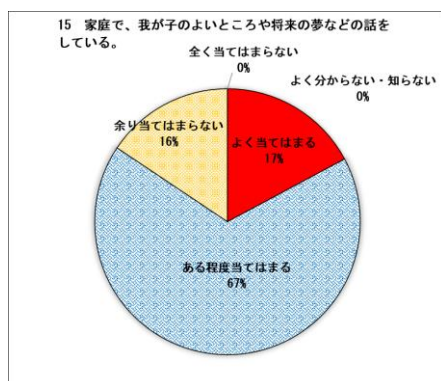
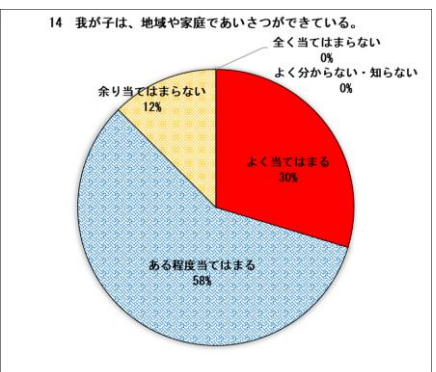
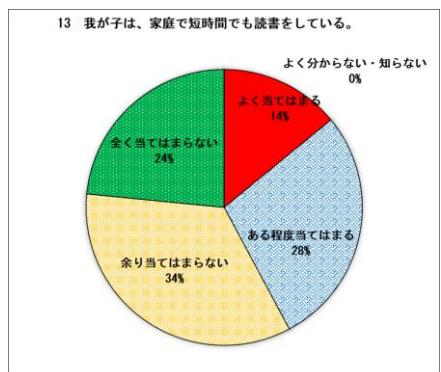
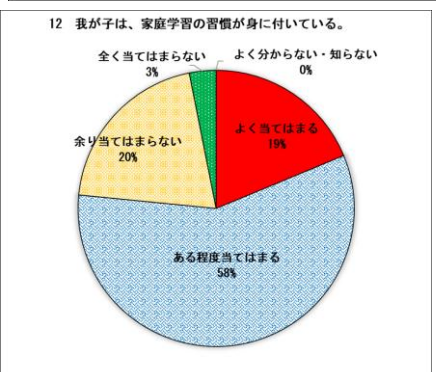
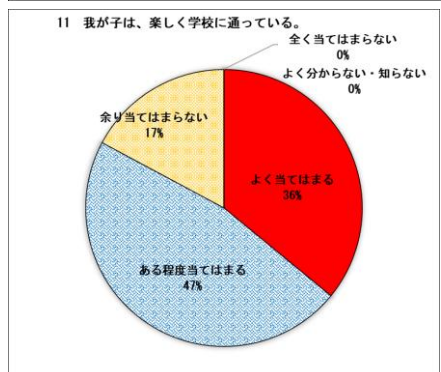
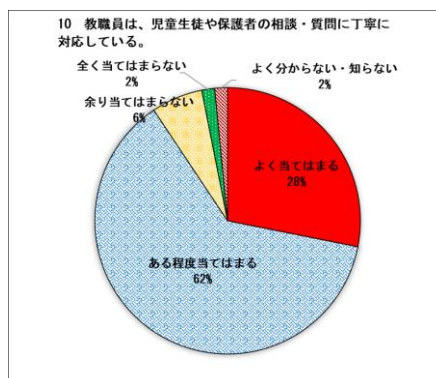
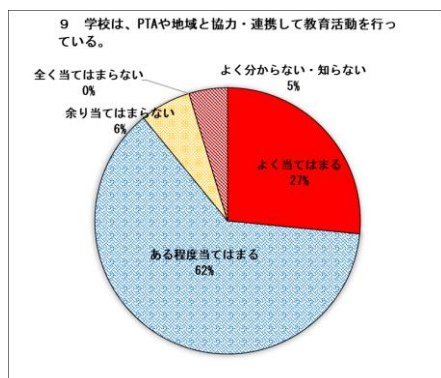
三和学園

1 アンケート結果

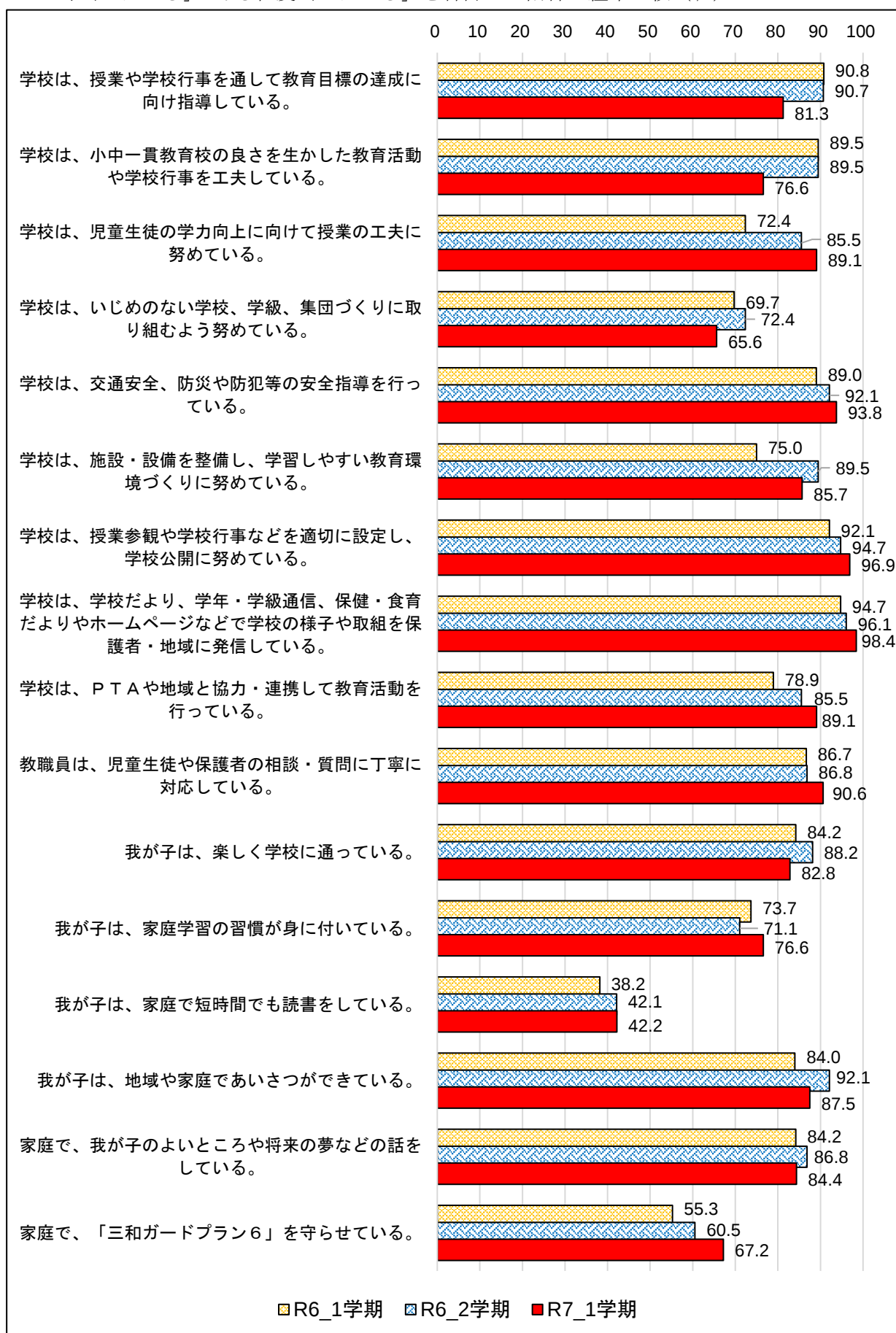
(1) 回答率 62.7% (令和6年度第2学期 70.6%)

(2) グラフ





(3) 「よく当てはまる」「ある程度当てはまる」を合計した割合の経年比較 (%)



2 考察と今後の取組について

(1) 肯定的な評価が高かった項目・伸びた項目

ア 学校は、授業参観や学校行事などを適切に設定し、学校公開に努めている。

→ 学校として大切にしている項目の一つで、これが伸びてきていることは、うれしく思います。今後も児童生徒が生き生きとし活動する姿をご覧に入れられるよう努めていきます。

イ 学校は、児童生徒の学力向上に向けて授業の工夫に努めている。

→ 学校は、児童生徒の進路実現に向け、学力向上を最重要項目と捉えて日々授業改善に努めています。今後も授業を工夫し、子どもたちの学力を伸ばしていきたいです。

ウ 学校は、学校だより、学年・学級通信、保健・食育だよりやホームページなどで学校の様子や取組を保護者・地域に発信している。

→ いろいろなたより、ホームページで学校の取組や子どもたちの生き生きとした姿をお伝えできるように努めています。ホームページについては、学校を開けている日は、毎日更新していますので、もっと多くの方に閲覧していただけるよう呼びかけていきたいです。

エ 我が子は、家庭で短時間でも読書をしている。

→ 少しずつではありますが、上昇してきている項目です。「よく当てはまる」「ある程度当てはまる」の合計が42.2%と、高いとは言いがたい数値ですが、アンケート調査3回連続で前回調査を上回っています。今後も、子どもたちが読書をする時間を増やしていけるような取組を家庭と連携していきたいです。

(2) 肯定的な評価が低かった項目・今後更に伸ばしたい項目

ア 学校は、小中一貫教育校の良さを生かした教育活動や学校行事を工夫している。

→ 前年度第2回調査から-12.9ポイントと、最も下げ幅の大きかった項目でした。児童会と生徒会の連携や全校遊びなどを行った1学期でしたが、小中一貫教育の良さを生かした教育活動や学校行事を更に工夫していきたいと思います。

イ 学校は、いじめのない学校、学級、集団づくりに取り組むよう努めている。

→ 肯定的な回答が前年度第2回調査から6.8ポイント下がった項目でした。今回の調査結果を受け止め、児童生徒の変化を見逃さないように努めるとともに、児童生徒が互いの良さを認め合い、尊重し合う学校、学級、集団づくりを進めていきます。

ウ 我が子は、楽しく学校に通っている。

→ 前年度第2回調査から5.4ポイント低下しています。学級活動や児童会・生徒会活動で意見反映に努めるなど、児童生徒の声を聞く機会を充実させたり、教職員との個別面談や相談の場の充実にも努めたりしていきたいと考えています。

3 ご意見やご感想についての回答

(1) 小学部に対するご意見やご感想についての回答

ア 「校門を開放して子どもたちが遊具で遊んでいます、大人の見守りはおられますか。」

→ 教員業務支援員やスクールサポーターが見守りを行っています。2学期からは、より安全を期するために、児童生徒登校後に校門を閉じるようにしています。

イ 「青空学級の開級式の内容と開催意義について教えてほしいです。」

→ 令和7年度青空学級開級式の内容は、合唱、校長の話、青空学級の発表、交流学級からのメッセージ、交流学級担任・青空学級担任の話でした。

開級式では、青空学級の児童を含め、一人一人が大切な友達であること、お互いの違いやよさを認め合い、支え合いながら豊かな人間関係を築ける集団づくりをねらいとしています。相互理解による子どもたちの成長の場として、重要視している行事です。

ウ 「通級指導が三和学園でやってもらえるようになり、ありがたいです。少しでも早く設備も整えていただきたいと思います。」

→ 現在、コンピュータ教室を通級指導教室に改築してもらうよう市に申請しているところです。まだ予算や業者の決定していない状況です。

(2) 中学部に対するご意見やご感想についての回答

- ア 「中学生の自転車通学について、一緒に行き帰りできる友達が少なく、不審者など心配です。」
「スクリレで熊の出没情報は届きますが、不審者の出没情報もほしいです。不審者疑いなどでもよいので、情報いただいたら親が迎えに行くなり、防犯できることもあると思います。」
→ 警察、市教育委員会と連携しながら、今後検討していきます。
- イ 「自主勉強はありがたいですが、学習内容を人と比べたり、先生が内容を指定したりするような指導は、本来の趣旨と違うと感じます。」
→ 自主勉強の目的は、子どもが自ら学ぶ姿勢を育むことにあるので、今後は、より個々の自主性を尊重した支援をしていきます。

(3) 学園全体に対するご意見やご感想についての回答

- ア 「タブレットの持ち帰りは重く、家庭での学習に支障があります。宿題中に触ってしまったり、集中できなかったりして、我が家では不要と感じています。携帯を持たせていないのに、タブレットを使いすぎて困っています。非常時の備えは理解しますが、持ち帰りは必要な時だけにしてほしいです。各家庭の意見を聞いてほしいです。」
→ 文部科学省の「家庭での ICT 端末活用の実践事例×StuDX Style」というサイトでは、「タブレット型端末を活用して、自宅等で学習を日常的に行うことは、家庭学習の質を高めるだけでなく、自立した学習者を育成する上でも必要です。」とあります。本学園においても、家庭学習の質を高めるために持ち帰らせておりますが、常時持ち帰らせるのではなく、各学年でその必要に応じて持ち帰らせています。ただ、大雨などの気象警報により臨時休校となる可能性があれば、事前に持ち帰らせることがあります。タブレット型端末を持ち帰ることで家庭学習や生活習慣に支障を及ぼさないよう、今一度児童生徒への指導を強化するとともに、保護者の皆様ともルールを共有するようにしていきます。ほかにも、タブレット型端末の使用の仕方についてご心配がございましたら、担任を通じてご連絡ください。
- イ 「三和地域の特性を生かした学校運営や三和創造学習の発展を期待しています。地域の教育に魅力を感じて移住する例は全国的に多くあり、三和学園が北近畿でそうした魅力ある学校になってほしいです。そのための協力であれば、一保護者、一地域住民として喜んで動きます。」
→ 三和学園教育への温かいメッセージをありがとうございます。三和学園が進めたい教育には、「三和学園ならではの小中一貫教育」「地域の特性を生かした教育」があります。福知山市に引っ越したいとお考えの方が、「どこに住もう？」→「三和の方の話を聞いたりホームページを見たりすると、三和学園が小中一貫教育や地域の皆様の力を借りてユニークな教育を展開している。」→「じゃあ、三和町に移住しよう！」となってほしいと思っています。三和学園教育の推進に当たり、保護者の皆様のお力をお借りすることが多々あるかと思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。
- ウ 「ランチルームでの給食は、三和学園の魅力の一つですが、コロナ後も再開されない理由が気になります。コミュニケーションの機会が減った分、学校生活で補えるような取組を期待しています。」
→ 三和学園開園の年の平成 31（2019）年度は、全校児童生徒 123 名＋教職員でランチルーム給食を実施していました。教育課程上、1～4 年、5・6 年、7～9 年で授業時間 1 コマの時間が異なりますので、水曜日を除いて一斉に「いただきます」「ごちそうさま」ができませんでしたが、異年齢でのコミュニケーションが取れるというメリットはとても大きかったです。しかし、児童生徒の出入りが多く、給食指導をきちんと入れるのが難しいというデメリットが見えてきました。令和 2（2020）度からのコロナ禍によってランチルームでの給食を中断してみると、各教室で落ち着いて給食を食べられるというメリットも見えてきました。特に低学年には、このメリットが大きいと感じました。令和 5（2023）年 5 月より、新型コロナウイルスの扱いが 5 類となったことで、児童生徒（特に開園の年を知る 7 年以上の生徒）にランチルーム給食の実施を望む声が生徒集会でも出ています。そこで、令和 6（2024）年度より、時期・学年を限定してランチルーム給食を行っています。今年度は、9 月の第 1～第 4 水曜日に、ランチルーム交流給食を実施する予定です。児童生徒同士の交流の機会を生かすことは、三和学園ならではの教育と捉えて重視しておりますので、今後も、給食時間以

外でもコミュニケーションが深められるような取組を進めていきます。

エ 「ホームページのこまめな更新ありがとうございます。とても気持ちのこもった写真と文章で、子どもたちの様子がよく分かります。閲覧数も増えていますが、画像の質を少し下げて個人が特定されないようにしてください。ホームページの存在を知らない家庭があるため、行事案内に『当日の様子はHPに掲載予定』と記載してはどうでしょうか。」

→ 大変うれしいご意見です。ホームページは、保護者・地域の皆様に子どもたちの様子を知らせる役割を担うとともに、三和学園教育を発信するための重要なツールの一つと捉えています。お陰様で閲覧数が伸びていますが、更に広く多くの方に三和学園教育の魅力を知ってほしいので、「当日の様子は学校HPに掲載予定です。」の一言は、是非使わせていただきます。ホームページ写真は、撮影時よりかなり画質を下げたものをアップしているのですが、もっと下げるようにします。

オ 「今年度小学生と中学生の階が分かれたことは、とても良かったと思います。」

→ 福知山市では、「シームレス学園構想（保幼小中一貫・連携教育）」を掲げ、「つなぐ・つながる」をキーワードとしており、その中にいわゆる「中1ギャップ」（児童が中学校進学において、新しい環境での学習や生活へ上手く適応できず、不登校や問題行動等につながっていく事態）の解消が含まれています。そして、小学1～4年を「基礎充実期」、小学5年～中学1年を「展開期」、中学2年～3年を「発展期」とし、義務教育9年間の6・3制を基盤とした、4－3－2年の区切りを学びの工夫として、具体的な「つなぐ・つながる」場面を重視した取組を進めています。三和学園において、同一階に5～7年教室を配置していた根本にも「シームレス学園構想」がありました。実際行ってみると一長一短があることが分かりました。近年の児童生徒数の減少などから、令和6年度より三和学園が「4－3－2年の発達段階を重視した6－3制」の小中一貫教育に転換したことを受けて、今年度については、中学部と小学部を分けて教室を配置しました。しかし、諸事情により次年度以降変更する可能性があることをご了承ください。教室の配置にかかわらず、今後も三和学園では、様々な場面で「つなぐ・つながる」教育を推進していきます。

最後になりましたが、皆様からの貴重なご意見は、私たちにとって大変ありがたく、今後の学園運営の参考にいたします。お子様の健やかな成長を願い、皆様と共により良い教育環境をつくっていきたいと考えています。引き続きご理解とご支援をお願いいたします。